日刊 動労千葉

86. 2. 14

No. 2167

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

勝利への確信固く 2・15 第二波24時間スト を貫徹しよう

全組合員の皆さん。動労千葉は十二日に開催された第十八回執行委員会で、業務移管阻止―線見強行阻止、検修合理化阻止・運転保安確立をかかげ、二月十五日、成田、千葉転、津田沼を拠点とする二四時間ストライキを配置し、闘うことを決定した。当局は、またもや団体交渉の一方的打ち切り、大量の白腕・公安、五千名にも及ぶ機動隊を配し、労働者の要求をふみにじり、力で闘いをおしつぶそうとしている。誰が黙って首を切られるものか。一切の弾圧をはねのけ、総力でストライキを貫徹し、「61・3ダイ改」阻止へつき進め。

団交無視―弾圧にのみ血道をあげる当局を許すな！

団体交渉継続中にもかかわらず、大量の白腕・公安、はては、官憲までも職場に導入し、一方的に線見を強行し、既成事実をつくりあげ、業務移管を強行せんとする当局の団交無視―まさに不誠実極まりない暴挙に対し、動労千葉は、連日、怒りの線見阻止闘争に決起し、十二日からは、抗議の非協力・順法闘争の強化をもって、正常な団体交渉のルールにのっとり、話し合うべきことをつきつけてきた。しかし当局は、一方強行の姿勢を崩さないばかりか、より一層の弾圧体制・デッチあげで官憲の導入、介入をも策し、力で要求をおしつぶし、全く理不尽極まりない首切り合理化を強行せんとしている。

こんな不法・不当は断じて許せない。我々は、山場である十五日、ストライキを配し、闘うことを決定した。全組合員が一糸乱れず、怒りの第二波ストへ突入しよう。

いま闘えば展望が開ける ―断固として「第二波」勝利へ―

われわれは、第一波ストライキを通し、国鉄「分割・民営化」の本質を満天下に暴き出すと同時に、国鉄労働者の反撃の血路を切りひらいてきた。

これに恐怖したがゆえに当局は、動労革マルを先兵に「労使共同宣言」を発し、一一九名もの大量不当処分をかけてきたのである。

当局は、動労千葉の闘いが全国に波及することを恐れている。そのために第二波の闘いを何んとしてもおしつぶそうとしているのだ。

「61・3ダイ改」は、十万人首切りの文字通りの突破口であり、その焦点としての業務移管は、労働組合解体攻撃そのものだ。現在、動労千葉・国労東京の仲間を揺り動かし、大衆的決起をつくりだしている。業務移管阻止―「61・3ダイ改」阻止の展望は、大きく切り拓かれつつある。

いま闘えば展望が切り開かれる地点に突入している。今こそ闘いのときだ。いかなる弾圧も辞さず、第二波を貫徹し、「61・3ダイ改」阻止、全国鉄労働者の決起の巨大な水路を切り拓こう。

15日、24時間スト 千葉動労

国鉄千葉動力車労働組合（中野洋委員長、千百人）は十五日始発から二四時間ストを行なう。これは十二日夜、千葉市要町の千葉動労本部で中野委員長が記者会見して明らかにしたもので、昨年十一月二八、二十九日の二十四時間ストに続く第二波。

今回のストの拠点は前回の千葉、津田沼に新たに成田が加わった三カ所。対象線区は総武快速、緩行に成田線が加わる。また内、外房線など千葉駅に乗り入れる各線でも千葉駅着と同時に乗務員がストに入る。

また、警察による明らかな妨害があった場合はその時点でストに入るとしており、早ければ十四日中にもスト入りがありうる。

久留里、木原線以外のすべてが影響を受けるが、総武快速、緩行は当局が運行に全力を挙げるものと見られる。

千葉動労は受験シーズン中であることを考慮し、内外房線などに朝夕数本の「受験列車」を走らせることを当局に提案するとしている。

千葉動労順法闘争で総武線などに遅れ

津田沼駅で故障も

国鉄千葉動労（中野洋委員長、千百人）は、千葉鉄道管理局の業務を東京北、南、西の三管理局に移管するのに反対して十二日の始発電車から順法（減速）闘争を強化した。この影響で、四日終電までに総武、内房、外房、成田各線などで上下二十九本が運休、特急二十八本を含む上下八百九十三本が最高三十六分遅れ、約六十七万人に影響が出た。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！